多様なテキストの活用を通した読むことと書くことの関連指導

～第６学年　国語「平和のとりでを築く」の実践を通して～

魚沼市立小出小学校　教諭　松島　慎一郎

1　はじめに

国語科に限らず，児童の学習の対象となるテキストは，文章のみではなく，図・表・グラフ・写真等の非連続型テキストを含み，教師はこうしたテキストを理解し，利用し，熟考する力を育成しなければならない。

本単元では，「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導を構想した。説明的な文章において，多様なテキストを読み取らせることにより，写真や図などの資料と関連付け，よりよい書き方を習得させる。そして，児童が自ら多様なテキストを効果的に使うことができるようにしたいと考えた。

「読むこと」で得た知識を活用して，「書くこと」につなげ，「書くこと」によって，より実感を伴った理解につなげたいと考えた。

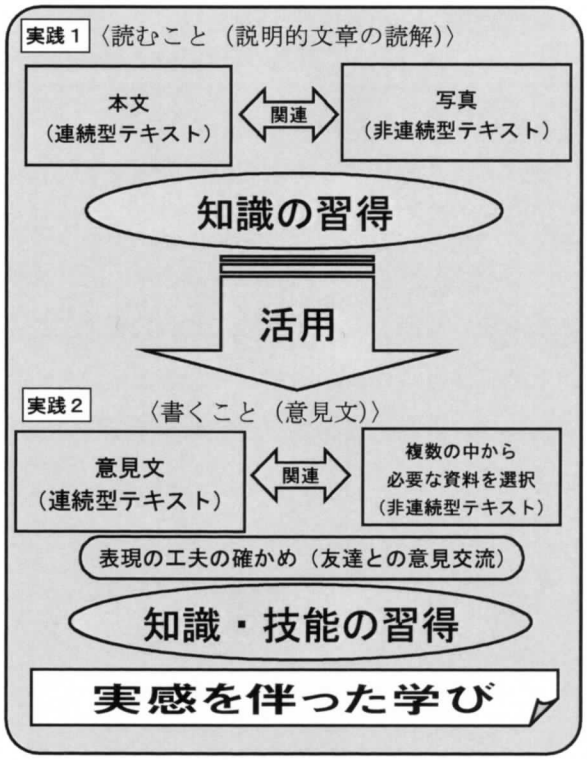
2　指導のポイント

右の図は，本単元の主な構造図である。多様なテキストの活用を基盤とした「読むこと」と「書くこと」の関連指導を柱とした。

児童の単元のゴールは，次の通りである。

> 説明的な文章の効果的な述べ方を学び，学びを活かした意見文を書いて友達に伝える。

〈本単元の構造図〉

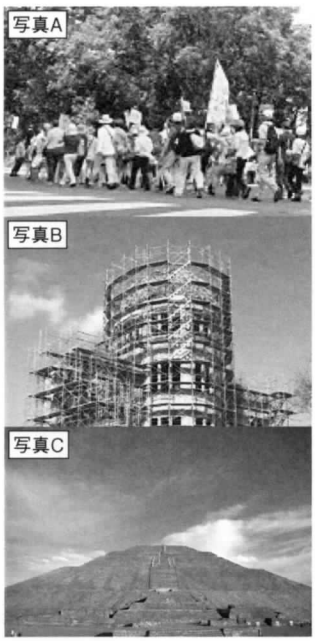


3　授業の実際

> 〈実践１〉
> ○本文に関連する最もふさわしい写真を選び，解釈することで，筆者の主張を読み取る。

写真選択

はじめに，３枚の写真を教師が提示し，筆者の主張を読み取る学習活動を行った。写真Ａは核兵器の開発に反対する人々（パキスタン），写真Ｂは現在の原爆ドーム，写真Ｃはピラミッド（世界



遺産)の写真である。この３枚の写真の中から，最も本文の内容にふさわしい写真を選択させ，その写真があることによる効果や筆者の意図について自分の考えを書かせた。

ペア活動

次に，ペア活動を行い，友達の考えとの類似点や相違点を明らかにし，選択した写真の有効性について検討した。本文の言葉を根拠にしながら思考する読み取りの学習が，筆者の主張をより明確にし，次のように児童の内容理解の深まりにつながった。

〈K児のワークシート〉
筆者は最後に原子爆弾の不必要性をはっきりと主張している。写真Bでもよいのだが，写真Aの方は人々が核兵器反対と呼びかけていて大勢の人がうったえているのでより説得力があり，写真Aの写真がよいと思った。この写真には，人々の表情が感じ取れるので，より読み手の心に届くと思う。写真Cは最後の主張には関係がない。筆者の意図をより伝えるには不十分だ。写真Bはよいと思ったが，写真Aと比べると筆者の意図をより伝えるためには不十分だ。自然な感じで心にうったえかけてくる写真だが，人の表情にはおとると思う。それに，写真Bを付け足すと３枚も同じような写真があるのでおかしい。以上の理由から写真Aがふさわしいと思う。

〈実践２〉
○意見文を書く際，効果的な事例となるよう内容を検討し合う活動を通して，説得力のある書き方を考えさせる。

教師が例として挙げるテーマ「地雷を世界からなくそう」について，思考させる活動を設定した。まず，教師が戦争や核兵器に関する数種類の資料を提示し，その中から，仮の要旨にふさわしい資料を選択させた。次に，それぞれが選択した資料の意味を考えて，具体的事例を書く活動を設定した。資料からどのような書き方をすれば，説得力が増すのかを思考させ，ペア対話や全体での発表を通して，自分の意見文に活用していけるようにした。

ペア対話

〈Y児の具体的事例〉
世界の国で，地雷による被害はどれくらいでしょうか。2003年の地雷による被害者は，65カ国で，8065人もいます。地雷がどれだけの国と人に被害をもたらすかがよく分かります。地雷だけでなく，不発弾の被害に遭っている人もいます。地雷と・・・
(S児からY児へのアドバイス)
資料から分かることだけでなく，説得力が伝わるようにしてみたらよいと思います。(例・・・地雷の被害者と魚沼市の人口を比べてみる)

4　おわりに

本実践では，読むことで学んだことを，いかに書くことにつなげるかが大きな課題であった。「分かる」と「できる」は違う。しかし，意見文を書き終わった子どもたちには，明らかな達成感があった。学習を通して，自分の力が高まったという自覚が促されたからである。こうした日々の積み重ねが，確実に子どもたちの力を向上させていくのだと考える。今後も実践を積み重ねていきたい。